

尺取虫になって歩む

人生どのような境遇にあっても、生きる基軸を決めて確実に
一歩を踏み出しましょう。そうすれば、後戻りすることはないでしょう。

日々、大学で若い学生たちを相手に過ごしていると、「達成すべき目標」も大事だが、「進むべき方向」をまず決めることが大切だよ、と声をかけずにはられません。

達成すべき目標とは、いわゆる「成功」でしょう。進むべき方向とは「生き方」です。将来に対しての方向が大切であり、それをしっかり確立させることが学生の本分だと思うからです。教育者として伝える大切なことでもあります。

病気になって不安を抱えている人にも、私は同じことを言います。学生は本分についての話をあまり聞いてくれませんが、がん患者さんは自分に照らし合わせながら、よく聞いてくれます。

進むべき方向を決め、足場を定めて一歩一歩確実に前進するものと言え、私はまず尺取虫を思い浮かべます。シャクガ科のガの幼虫であるシャクトリムシですが、体を逆U字型にして進んでいきます。そのとき、基軸をしっかり持っているの、ぶれずに前進することができます。

この尺取虫を、がんにとれた研究者がいます。癌研究会癌研究所所長、国立がんセンター総長を歴任した中原和郎です。中原は、「尺取虫とは自分のオリジナルポイントを定めてから後ろの吸盤を前に動かし、そこで固定して前部の足を前に進める。かくていつも自分のオリジナリティーを失わないですむ」とし、がん細胞もそのようにして生きていく、と言ったのです。

がんの芽の中で、正常細胞をがん化させて生き残るのは、実は相当の強者です。すべてのがん細胞が生き残れるとは限らず、いわば、この尺取虫運動ができたがんのみが可能とすることです。確実さとしぶとさ、進む方向をしっかりと決めるという点では、尺取虫とがん、この両者には学ぶことがあるでしょう。

つまり、自分の生きる役割や使命感を問う作業は、生きる基軸となるオリジナルポイントを定める作業なのです。そこに足場を固めてから、次の一歩を踏み出し、ぶれずに前進を続けていく。基軸がしっかりしていると、歩みはゆっくりですが道に迷うことなく、結果として軽やかに楽しんで生きることができます。人生で遭遇する多くの問題は、このようにして解決されると私は思っています。だから、言葉の処方箋にもなるのです。

「尺取虫になって歩みましょう」

尺取虫の生き方は、いたずらに遠くの先にある光を目指すのではなく、足下を照らす懐中電灯を持ち、確実に進むに等しい生き方です。先のことを考えたら希望を失いがちな状況であればこそ、足下をしっかりと見つめて今日という日を生きる知恵を学びましょう。

樋野興夫 著

いい覚悟でいきるより

